

一 次の文章（『思考の整理学』外山滋比古）を読み、後の問に答えなさい。

著作権に配慮して、
引用文の表示は控えています。

問一 空欄Aに当てはまる語として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 金銭 イ 知識 ウ 学問 エ 実生活

問二 傍線1の「処理できる」とはどうすることを意味するか、本文中の言葉を用いて一五字以内で答えなさい。

問三 傍線2「具体」の反対語を本文中から抜き出さない。

問四 傍線3「転がる石はコケをつけない」と反対の意味を持つことわざとして最も適当なものを次のの中から選び、記号で答えなさい。

ア 泥棒を捕らえて縄をなう イ 石の上にも三年
ウ 船頭多くして船山を上る エ 馬の耳に念仏

問五 傍線4「行」のここでの読みを答えなさい。

問六 傍線5「片端から消えてしまい、後に残らない」とあるが、その理由として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 煩雑な個々の経験や考えたことは、その時々で変化していくので記憶できないから。

イ 煩雑な個々の経験や考えたことはそのままの形では記録し、保存できないから。

ウ 煩雑な個々の経験や考えたことは同類のものにまとめることができなから。

エ 煩雑な個々の経験や考えたことは知識として普遍性を獲得できないから。

問七 傍線6「自分だけの」ことわざ”のようなもの”として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア いくつもの煩雑な経験や考え方を自分だけに解るように一般化したもの。

イ 自分の煩雑な経験や考え方を誰にでも説明しやすいように一般化したもの。

ウ 同類のものと照応できるように、自分の経験や考え方を普遍的な形に一般化したもの。

エ 同じような経験や考え方を記憶しやすいように整理したもの。

問八 傍線7「思考の体系を作り上げる」は、どのようにすればそうなるのか、それに当たる最も適切な箇所を本文中から二〇字以内で抜き出さなさい。

問九 筆者の主張として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 人間の知恵であることわざを用いてこそ問題解決が図られる。

イ ことわざを覚えなければ現実を理解することは不可能である。

ウ 経験によって自らの思考の体系を作り上げることができる。

エ ことわざを知れば知るほど優れた思考が可能となっていく。

二 次の空欄にあてはまる言葉を後の語群の中の語を使って、漢字で記しなさい。

1 () もなく大きな絵。 2 驚きの () を漏らす。

3 彼の言葉に () が痛む。 4 しきりに () をかしげる。

5 三々 () 集まる。 6 () 尽蔵の資源。

うしろ へんえ む とほう むね くび

三 次の文の傍線部分の漢字の読みを答えなさい。

1 乾杯の音頭をとる。 2 面目を施す。 3 七夕祭りを見に行く。

4 天然記念物を保護する。 5 今朝早く散歩した。

著作権に配慮して、
引用文の表示は控えています。

一 「令和四年度一般入校試験（後期） 国語 問題用紙」
次のエッセイ（『物語の善きサイクル』村上春樹）を読み、後の問に答えなさい。

問一 空欄Ⅰ～Ⅲに入る最も適当な語句を、各群のA～オからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- I A 精悍な イ 元気な ウ 貪欲な エ 物足りない オ 調子づいた
II A いさり火 イ かがり火 ウ ランプの火 エ ろうそくの灯 オ のろし
III A 主題 イ 寓意 ウ 偶成 エ 投影 オ 仮託

問二 傍線1「目もくらむような思いをしたものだった」とあるが、筆者はなぜそのように思ったのか。最も適当なものを、次の中から選び、記号で答えなさい。

- A 読書経験の浅い少年であるために、古今の膨大な書物の量にただ圧倒されてしまったから。
I ちっぽけな存在である筆者は、立ちほだかる書物の存在感に恐縮してしまったから。
U 幼い少年だった筆者にとって、巨大な王城のような図書館の大きさは驚愕に値したから。
E まだ知能の高くない子供には、どの順で物語を読むべきなのか深刻な問題となったから。
オ まだ幼稚だった筆者が架空の物語世界に没頭すると、現実を忘れてしまったから。

問三 傍線2「ここではないどこか」と同じ場所を表現している語句を五字で二つ、本文中から抜き出しなさい。

問四 傍線3「図書館というところが、僕にとって大事な意味を持つ場所であった」とあるが、なぜ筆者はそのように感じたのか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。
A どんな物語であれ、図書館にある物語は筆者をやさしく受け止める暖かさを持っていたから。

I 辛い現実を逃れ「ここではないどこか」へ連れて行ってくれる唯一の場所だったから。
U 深い森に抱かれるように、他者を排して内部に向き合える仮想空間になっていたから。
E 自己を見つめ、未来への希望を獲得できるような特別な居心地を与えてくれたから。
オ あらゆる時代、あらゆる国へ通じる扉が用意されている不思議な空間であったから。

問五 傍線4「メタファー」の意味として適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。
A 実存 イ 変身 ウ 高次 エ 異化 オ 隠喩

問六 傍線5「生き生きとした、限らない可能性」とはどのようなものか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。
A リアリティのある言葉に誘われて経験し得ないような感覚や感情までも顕在化させること。

I 「あちら側」の世界において、日々の暮らして感じる悲しみや喜びを暗号化すること。
U 多種多様な物語が半永久的に続いていくように、図書館に保管・所蔵されること。
E 非現実的な世界を構築する物語が、「あちら側」へと誘ってくれること。
オ 実体験を比喩的に描写することによって、小説が描く架空の世界を無限に拡大させること。

問七 傍線6「ひとつのサイクルが作り出されることになる」とあるが、「サイクル」の内容の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- A 物語に対して読者と作家が各自の解釈を加えていくなかで、世界観が拡散すること。
I 作家が推敲を繰り返すなかで、物語の世界観は醸成されていくということ。
U 作家は作品と対峙するなかで、作家として成長することがあるということ。
E 物語は読者との相互作用のなかで作られ、新たな価値を生み出すということ。
オ 印刷されて流布した物語は、読者によって修正されてより良い作品へ昇華するということ。

二 次の四字熟語の傍線部のカタカナを漢字にしなさい。

- 1 ユウ猛果敢 2 厚ガシ無恥 3 一ネシ発起 4 一網ダ尽 5 キ怒哀楽

三 次の傍線部の漢字を一つ選び、記号で答えなさい。

- 1 宿題をテイ出する。 ア 低 イ 抵 ウ 程 エ 堤 オ 提
2 シン略戦争を非難する。 ア 震 イ 薪 ウ 侵 エ 浸 オ 寝
3 ひよこのシ雄を調べる。 ア 雌 イ 紫 ウ 詞 エ 指 オ 脂
4 トウ論会が開かれる。 ア 逃 イ 闘 ウ 到 エ 討 オ 塔
5 樹レイ百年の桜の木。 ア 隸 イ 令 ウ 麗 エ 札 オ 齡